

滋賀県立

聴覚障害者センター

だよの



—110号—

発行日／令和5年7月10日

発行所／草津市大路2丁目11-33

TEL 077-561-6111

FAX 077-565-6101

HP <https://shigajou.or.jp>

全国聴覚障害者情報提供施設協議会 2023年度 第19回施設大会の開催

全国の都道府県に設置された聴覚障害者情報提供施設53施設と、4つの賛助会員施設からなる全国聴覚障害者情報提供施設協議会の2023年度総会が、6月23日(金)山梨県甲府市で開催され、協議会理事長の中西久美子と施設長代理の戸知谷由美が参加しました。

2022年度聴覚障害者情報提供施設協議会の事業報告・決算報告。並びに2023年度事業計画・予算について協議され、中西久美子理事長の継続が賛成多数で可決されました。4つの専門委員会(①意思疎通支援事業 ②映像制作 ③相談支援)も研修等、計画的に動き始めます。

総会に合わせて開催された研修

総会に合わせて開催された研修では、「聴覚障害者情報提供施設における相談支援のありかた」がシンポジウム形式で行われました。パネラーの、厚生労働省自立支援振興室 富原室長補佐、全日本ろうあ連盟 吉野理事、東京手話通訳等派遣センター 森所長からは、障害者の相談支援の法的位置づけや、当事者相談員としての実例や相談のあり方などの講演が



あり、会場では活発な意見交換がありました。社会資源として、障害者就労・生活支援センターや児童相談所など相談機関はありますが、聞こえない人が相談しにくい、情報提供施設の相談員の活用が少ない、相談時の手話通訳者の技術担保など課題は多々浮き彫りになりました。とりわけ、情報提供施設で相談ができることをもつとアピールしていく必要性が強調されました。

困ったときは専門家の支援を受けながら問題解決に向かう。聞こえない、聞こえにくい人にとって情報提供施設の役割は大きい。身近な聴覚障害者の細かなニーズに耳を傾けながら、当事者は何を求めているのか、そのためにはどんな人材が必要かも私たちに課せられていると感じました。

「健康のためには予防が大事」 登録通訳者研修会

4月22日土曜日、キラリエ草津大会議室にて健康管理講習会が行われました。これは登録している通訳者が頸肩腕症候群を発症しないために、元気に活動するため毎年開催している研修です。全参加者87名のうち、手話通訳者58名、要約筆記者26名でした。まず

は滋賀医科大学の北原医師より、2022年度検診結果から滋賀県の現状を分析報告されました。長く活動するためには

- ①健康に留意する
- ②疲れをためない
- ③痛みを我慢しない

ことが大切であること、そして毎年、この研修を受けることにより再認識してもらいたいと話されました。その後ラジオ体操一級指導士である、山本いづみさんにラジオ体操、第一の動きを一つ一つ丁寧に指導していただきました。馴染みのあるラジオ体操ですが、今までの動きが正しくなかったことがわかり、会場からは笑い声も聞こえ、楽しく体操することができました。

一年に一度、自分の健康に対する意識を振り返るよい機会となっています。つい、日常に追われがちですが、元気で活動するために、予防と休息を心掛けていきましょう。



燃ゆる感動がごしま大会 リハーサル大会を視察しました

この秋、鹿児島で開催される特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動がごしま大会」リハーサル大会を視察しました（5月21～22日）。かごしま大会は2020年開催がコロナ感染拡大で延期され、3年を経て今年2023年の開催です。今大会は感染予防対策の入場制限もなく（視察申請は必要）、全体的に穏やかな印象を受けました。

今回、視察の目的を「ボランテニアの動きとボランテニアリーダーの役割」としました。ボランテニアさんを見つけては声をかけ、「滋賀から来ました」「遠いところお疲れ様です」との会話から始まり、本題「ボランテニアをやってみてどうですか」へ。「手話に自信はないけど、とかくか伝えたいとの気持ちでやっています」との積極的な態度が印象的でした。リーダーも「手話が難しくても筆談や様々な方法で伝えるこ

とができる。とにかく臆さないで」との声かけをしているとのこと。これはボランテニアさんの安心感になりますね。

残念ながら、リハーサル大会という言ことで準備が整っていないところも多く、文字情報などは実際に見ることはできませんでした。本大会では手話・文字情報投影用のモニター設置が予定されています。

今年度、滋賀県ではボランテニア養成事業の一環として、来年から始まる養成研修に向けて各会場ボランテニアリーダーの選出と研修を行います。本番でボランテニア各個人が精一杯活動できるように導くことのできる、そんなリーダーを目標に、検討しながら研修を進めていきます。

10月頃からは手話・要約筆記ボランテニアの一般募集が開始される予定です。

また今後、啓発イベントの開催も予定しています。これを機会に障害者スポーツにも関心を持っていただければ幸いです。



日本財団 電話リレーサービス 普及啓発員事業の紹介

今年度は電話リレーサービス普及啓発員事業を担当させていただきました。事になりました、職員の中西俊喜・山瀬鋭了と申します。よろしくお願います。

みなさんは電話リレーサービスをご存知でしょうか。すでに利用している方、聞いたことはあるという方、知らないという方、様々おられるかと思えます。

令和3（2021）年より、国の公共インフラとして、24時間・365日、双方向けの利用、緊急通報機関（警察、消防局など）への連絡が可能になった電話リレーサービスがスタートしました。令和5（2023）年3月1日時点で全国12,307人の登録数があります。電話リレーサービスは総務省の認定を受けた「一般財団法人日本財団電話リレーサービス」が提供されています。

当センターと契約して普及啓発員事業が始まりました。この事業は

- ① 電話リレーサービス登録相談窓口の開設、
- ② 電話リレーサービス説明会・登録会の開催
- ③ 会報誌による周知啓発を取り組んでまいります。

・電話リレーサービスとは何？
・使い方はどうすればいいの？
・電話リレーサービスについて詳しく知りたい！

そんな方のために、滋賀県立聴覚障害者センターでは普及啓発員を設置しています。

気軽にご相談・お問合せください。

緊急時の備えとして

電話リレーサービスにご登録を!

電話リレーサービスは、こんな時に便利・安心!

- 「緊急時、電話ですぐに繋がる連絡ができました!」
- 「災害時、家族の安否確認をすくすくできて、ホッとしました!」
- 「お店へ行く際にも、緊急連絡先や予約の連絡が、いつでも連絡できて安心!」
- 「障害者のお預けや、お一人暮らしの不安を、電話ですぐに解消!」

登録に関して、まずはお気軽にお問合せください!

滋賀県立聴覚障害者センター

手話タイムプラスワン

放送までの裏側

みなさんは手話タイムプラスワンをご覧になったことはありませんか？手話タイムプラスワンは広く県民に県政の出来事や当法人からのお知らせなどを手話と字幕でお送りする番組です。

今回は、放送までの裏側を一部ご紹介いたします。

収録当日には、びわ湖放送の担当者、ナレーター、手話キャスター、ろうアシスタント、健聴アシスタントで放送予定のニュース原稿の打ち合わせを行います。1つのニュースに与えられた時間はたったの1分20秒。時間内に伝えられるように、また、老若男女誰が見ても伝わりやすいように手話表現の工夫が必要です。これがなかなか難しい。事前に原稿を読み込み、言葉の意味やそれに合った表現を準備しておく必要があります。収録時間ギリギリまで練習を行い、本番へ向かいます。

収録スタジオで各自配置につき、フロアディレクターがカウントダウンを始めます。「5秒前、4、3、(2)、(1)(どうぞ)」※○

は声を出さずに手で合図を出します。

合図と共にキャスターが目の前に映し出されるカンペを見ながら手話を

始めます。ろうアシスタントはキャスターの手話におかしなところがないかチェックしながらカンペを操作。健聴アシスタントはナレーションが手話とずれないようにキャスターの手話表現の間をナレーターに伝えます。

全てのニュースを取り終えたら、最初から最後まで通して確認をし、オッケーが出れば撮影終了。無事終了したことに一同ホッとしながら「おつかれさまでした！」と解散。

簡単に紹介をさせていただきましたが、大変なお仕事です。

この記事をきっかけに手話タイムプラスワンを知らなかった方、前は見ていたけど、というそのあなた！ぜひ、ご覧になってください。



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

—— デフアスリートを迎えて講演会開催 ——

2025年滋賀県で開催される「わたSHIGA A輝く国スポ・障スポ」を広く県民に知っていただき、障害者スポーツの楽しさや、聴覚障害者に関わるボランティアへの関心をたかめるため、滋賀県聴覚障害者福祉協会は啓発活動を継続していきます。

6月3日、びわこみみの里で開催されたぼんぼこまつりに合わせて、デフアスリートの森本真敏さんを講師に迎え、障害者スポーツの魅力伝える講演会を開催しました。昨年度1月、「デフバレーの魅力」に続く2回目です。

森本真敏さんは、数々の国際大会に出場し、2009年デフリンピック台湾大会ハンマー投げで優勝の金メダリストです。また、2002年から国体に出場する滋賀県代表選手でもあります。

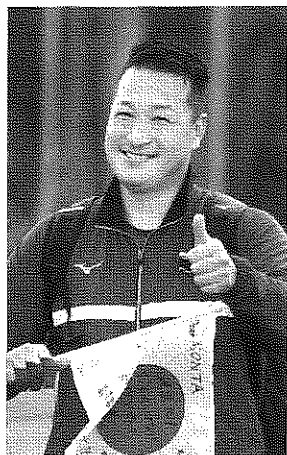
滋賀県立聾話学校時代の少年野球、中学硬式野球部の経歴から、高等部でハンマー投げを始め、さらには、国際大会での国を超えたコミュニケーションなど、

豊富な経験から人と人の出会いやつながりが大切であること、感謝の気持ちを持ち続けることなどを話しました。

参加の子どもたちは、森本選手の身近で手話を見て、差し出された金メダル・銀メダル・銅メダルに触れ、メダルの重さや開催国の特徴があるデザインに興味を示していました。

森本選手はアスリートに復帰し、今後もスポーツ活動を続けていかれるそうです。子どもたちの瞳には、あこがれる大人の姿として焼き付いたことでしょう。

さて、今年10月には、2025年滋賀県大会を支えるボランティアの募集が始まります。聴覚障害のある選手、関係者、観客をこころよくおもてなしができるよう、手話・要約筆記情報ボランティアに参加し、大会を盛り上げていきましょう。



【デフリンピックとは】

デフリンピックは、4年に1度、世界規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会。

2025年、東京大会の開催が決定しています。詳しくは一般財団法人全日本ろうあ連盟のHPをご覧ください。

センター行事予定表 (7月～9月)

7月	8月	9月
1 手話通訳Ⅰ 開講式・講義	1 手話通訳Ⅱ	
4 手話通訳Ⅱ	2 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)	2 手話通訳士養成
5 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)	3 手話通訳Ⅰ	
6 手話通訳Ⅰ	4 子ども事業	5 要約筆記者養成 手話通訳Ⅱ
8 手話通訳士養成・要約筆記者登録者研修PC きこえの相談	5 手話通訳Ⅱ講義 手話通訳Ⅰ講義	6 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)
11 要約筆記者養成 手話通訳Ⅱ	8 手話通訳Ⅱ	7 手話通訳Ⅰ
12 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原) 日曜教室 (ポッチャ)	9 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)	9 手話通訳Ⅱ講義 子ども事業 きこえの相談
13 手話通訳Ⅰ	10 手話通訳Ⅰ	12 要約筆記者養成 手話通訳Ⅱ
18 手話通訳Ⅱ		13 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)
19 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)	19 きこえの相談	14 手話通訳Ⅰ
20 手話通訳Ⅰ		19 要約筆記者養成 手話通訳Ⅱ
22 手話通訳Ⅱ 合同 子ども事業 (キラリエ) 要約筆記者登録者研修手書き	22 要約筆記者養成 手話通訳Ⅱ	20 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)
25 要約筆記者養成	23 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)	21 手話通訳Ⅰ
25 手話通訳Ⅱ	24 手話通訳Ⅰ	23 子ども事業
26 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)	26 手話通訳者現任研修 手話通訳Ⅱ講義	26 手話通訳Ⅱ
27 手話通訳Ⅰ	29 要約筆記者養成 手話通訳Ⅱ	27 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)
29 子ども事業	30 手話通訳Ⅱ 手話通訳Ⅰ (米原)	28 手話通訳Ⅰ
30 職員合同研修 キラリエ	31 手話通訳Ⅰ	30 手話通訳Ⅰ 講義

手話通訳Ⅰ 昼コース 木曜日、夜コースは米原 水曜日
 予定は変更になる場合があります。

タツノオトシゴ

コロナ禍で長く中止されていた花火大会が、今年は全国各地で開催されるとのこと。
 花火が大好きな私は、これまでも様々な土地の花火を鑑賞してきました。
 海や川、湖など打ち上げる場所や、その土地によっても種類や見え方が変わり飽きません。
 最近では音楽一体型で鑑賞する花火が多いですが、私個人的には花火の音と、体に伝わる振動
 だけで鑑賞するのが好きです。
 花火だけでなく、四季折々の風物詩を楽しみ、大切にしながら、丁寧に暮らしていきたい
 など、年齢を重ねるごとに思います。
 先ずは、仕事や目の前の雑事に追われる日々を何とかしなくては……。 (E.T)